cumre REPORT

クムレレポート



cumre クムレ

基本理念

ともに育ち　ともに生きる

私たちクムレは、
倉敷市民から、愛され、信頼される福祉サービス提供を目指し、
地域・利用者・職員・ボランティア等、
多くの人達と共に手をたずさえて行こうという願いのもとに、
基本理念を定めました。

行動指針

① 私たちは心にアンテナを張り、
　小さなニーズも見逃さない支援を提供します。

② 私たちは人・仲間を大切にします。

③ 私たちは高い目標を持って
　仕事にチャレンジしていきます。

基本方針





法人概要

事業内容	・第１種・第２種社会福祉事業（障がい・保育）
	・公益事業
設立	昭和３１年４月
代表者	理事長　財前　民男
職員数	445 名（令和２年 10 月１日現在）
経常収入	19 億 6100 万円（令和元年度）
事業所	岡山県倉敷市／総社市
	事業所数　31 ヶ所

クムレの事業領域

福祉の相談センタークムレ

- ●子ども何でも相談センター
- ●小ざくら地域子育て支援センター
- ●児童家庭支援センタークムレ
- ●指定特定相談支援事業所
  指定障がい児相談支援事業所
  クムレ てとて
- ●倉敷学園
- ●倉敷発達障がい者支援センター
- ●倉敷地域生活支援センター

子育て支援

対象　乳幼児

- ●幼保連携型認定こども園
  小ざくら保育園
- ●小ざくら乳児保育園
- ●小ざくら第二保育園（夜間）
- ●小ざくら小規模保育園
- ●小ざくら地域子育て支援センター
  （一時保育・休日保育）
- ●母子生活支援施設倉敷市鶴心寮
- ●くりのおうち保育園（倉敷拠点）

発達支援

対象　発達に何らかの遅れがある
お子さん

- ●児童発達支援センタークムレ
- ●児童発達支援事業所 きらり玉島
- ●児童発達支援事業所 きらり水島
- ●児童発達支援センター倉敷学園
- ●児童発達支援事業所 きらり中庄
- ●児童発達支援事業所 きらり中庄
  （重症心身障がい児通所支援）
- ●児童発達支援事業所 きらり倉敷
- ●児童発達支援事業所 きらり児島

自立支援

対象　障がいのある方

- ●障がい者支援施設あしたば
- ●共同生活援助事業所 クムレ
- ●生活介護事業所 わきあいあい
- ●生活介護 コトノハ
- ●放課後等デイサービス コトノハ
- ●居宅介護事業所 なないろ
- ●就労継続支援Ｂ型 クラシス
- ●就労継続支援Ｂ型 やさい畑クムレ
- ●クムレ地域公益活動推進センター
- ●居住支援センタークムレ

水島拠点：ひろば にじいろ

倉敷拠点：ひろば 栗の家

ごあいさつ

NEXT vision 2025

社会福祉法人クムレ
財前 民男



1．第２期中期経営計画で取り組んだこと

社会福祉法人クムレでは、2015 年からの５か年の第２期中期計画に取り組み、倉敷・水島の２拠点体制に移行し地域の実情に合った地域支援モデルの構築を進め、乳幼児期から高齢期までの複合的な課題を解決する福祉的な支援・人財育成・法人の体制強化に取り組みました。その結果、法人の地域の支え合いの場所となる「ひろば」を各拠点に整備し、あらたな事業に取り組み、法人の事業規模も 25 事業：15 億円（2015）→ 33 事業：19 億円（2019）と拡大しました。また、「キャリアパス人財育成制度」や、「岡山福祉職場すまいる宣言」の５つ星認証など働く環境づくりにも努めてきました。

「ともに育ち　ともに生きる」理念の実現へ向け、「加わろう 地域のつながり 支え合い」の合言葉のもとに切れ目のない支援体制の構築に力を注いできました。

2．2025・2040 年への課題から地域共生社会の実現に向けて

倉敷市における人口推計によると、2040 年には 2020 年と比べ市全体で人口が 4.7 万人減少し、少子高齢化が進むことから、誰もがともに支えあう地域共生社会モデルを、地域との協働と実践の積み重ねを通じて実現していく必要があります。

クムレ中期経営計画 2025 では、私たちの法人理念「ともに育ち　ともに生きる」を実現する上で、令和４年春、岡山市に開設する多機能型重度グループホームと、今春移転改築した小ざくら第二保育園を、第３期中期経営計画の重点事業と位置づけ、従来型の福祉対象者を自己完結的に支援することから転換し、地域共生型事業と位置づけ、家族や地域の人々と一緒に利用する人がより良く生きることができる支援環境を整えていくこととしています。

また今後の人口減少社会の変化に対応していくために、地域の中で福祉にかかわる人財を育てていくことも必要です。多様性・包括性を持った人財の循環システムを構築し、今後の人口減少社会への対応を進めます。

そのためには、先駆的な事業の発展と安定的な経営を目標とし、クムレの事業目標を各拠点ごとで具体化し「見える・わかる・できる」クムレとして今後５か年の中期経営計画を進めていきます。

事業開設当初の私たちの役割は、貧困や障がい等生きていく上でのハンディキャップを持つ人たちを施設で保護・救済することが中心でしたが、戦後の復興期から経済発展期を経て、法人設立から 65 年が経過した現在では、逆に、それまで培われていた、地域や家族の自助・共助・互助のチカラが弱体化し、孤立・引きこもり・虐待・自殺が増えてきています。クムレ中期経営計画 2025 では、乳幼児期から高齢期に至るまでの切れ目のない支援体制を活用して、私たちだけが遮二無二頑張るだけではなく、関係機関や地域に住む人たちと一緒に、安心して暮らせる居心地の良い地域を創っていく所存です。

新たなるクムレのチャレンジ、コロナ禍の中でのスタートになりますが、一緒に頑張りましょう。

中期経営計画 2025

2020 年 4 月 ~ 2025 年 3 月

「ともに育ち　ともに生きる」理念の実現のために

新たなクムレ中期経営計画 2025 では、これからの少子高齢化社会への対応として、「ともに育ち ともに生きる」社会を実現するため、私たちが支援の中心とする 2 つのエリアでの地域づくり、それを支える人財育成・確保、法人の安定的な経営を柱に、各拠点での事業執行の PDCA サイクルを、「見える化、わかる化、できる化」の視点を持って推進していきます。

多様な生きるを実現する地域づくり

1. 地域共生社会に向けて拠点のありたい姿を実現する

クムレの理念実現に向けての「見える・わかる・できる」地域モデルの実現・拠点の重点目標に向けた取り組みの実現を目指します。多様な福祉ニーズに寄り添った事業の発展（事業規模 現在 19 億→ 2025 年 25 億）
倉敷・水島の拠点で地域を巻き込んだ福祉ネットワークを構築し、多機能化・重度障がい対応を進めていきます。

2.Our Business（地域×多職種協働×なんでも相談）でみんなを元気にする

ありたい姿を共有し、クムレ人として、地域の住民の方を巻き込みながら、地域づくりの推進を強化します。
ことわらない何でも相談体制を構築し、引きこもりや空き家対策を進めていきます。

わがことまるごとを実現する仲間づくり

3. 地域を支える人財・チームを育成する

多様性・包括性を持った採用→育成→定着のサイクルを実現し、人事制度の見える化・わかる化、その人に合った働き方を構築していきます。

4. 多様性・包括性をもった人財マネジメントを推進し、人財を確保する

採用人財のニーズに合わせた採用形態を取り入れたコミュニケーション型の人財確保、職場の魅力発信を推進していきます。

地域を支えるクムレの成長と安定した経営基盤づくり

5. 成長と安定を目指し、「見える・わかる・できる」法人経営をする

私たちのありたい姿と成果をみんながわかるように、業務コミュニケーションの質の向上とグループウエアやデータ活用を通じて、仕事の質の向上を進めていきます。

6. 第三者評価・内部監査を活用し Business のブラッシュアップをする

第三者評価や指導監査等を活用し、ありたい姿・PDCA の確認に向けた活動を進めていきます。
内部監査室・サービス向上委員会の活動として、業務の点検から改善を実施していきます。



7.ICT（Information and Communication Technology）の活用をする

ツールの有効活用にコミュニケーションの質の向上と業務プロセスの見える化を進めていきます。
情報ネットワークを活用し、全職員への情報伝達体制を構築していきます。（全職員のネットワーク参加）

8. 公益的な取り組み・防災対応の推進をする

地域での生活を支える各エリアでの公益的な取り組みを進め、地域とのネットワーク化の中で要配慮者等の災害時の受け入れ態勢を構築していきます。

事業所案内

倉敷拠点

「Our 楽（らいふ）♥ FE」を実現するために私達のありた

2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。

クムレ 10 の心得の実践者

『まちのじどう家ん　上東商店』



クラシス 管理者
久保 巨人

クラシスがある倉敷市上東地区は団塊の世代が住宅街を作った比較的新しい街で今もなお住宅が新築されています。こうした核家族の多い地域において、私が地域の課題だと感じていることがあります。それは「子ども達の居場所」です。外遊びは、公園でボール遊びが禁止され遊具は危険だからと固定や撤去されています。室内遊びでも今の時代ゲーム機を持っていなければ友達と一緒に遊びたくても遊べない状況にあります。子どもは友達同士で遊ぶ中で人間の成長において学ぶことがたくさんあります。親から学ぶこともありますが、親が見ていないところで学び成長することもたくさんあります。そこで、私たちが住んでいる地域に子ども達が安心して遊べる場所があれば、昔自分が子どもの頃よく遊んでいた児童館のような場所があったら、自分と同じように笑顔になる子どもが一人でも増えるのではないか。コロナ禍の中で子ども達に少しでも笑顔になってもらいたい。こうした想いから上東地区に「まちのじどう家ん　上東商店」を令和 2 年 12 月にオープンします。駄菓子コーナーや古本コーナー、みんなで遊べるようにテレビや家庭用ゲーム機、無料の Wi-Fi 等を設置します。運営は民生委員や愛育委員、保健師、大学生、利用者をはじめ地域住民の方です。地域の一員として日々楽しくチャレンジ中です！

5 年後の

利用者・職員・地域
強力な団結力で困
「誰もが暮らしやすい地

10. “ クムレ

地域の社会資
「ごちゃまぜの
職員ひとりひ

4. 団結力を身につけよう。

クムレ 10 の心得の実践者

『みち先生のひかり日記』





きらり中庄 管理者
西道 由佳

きらり中庄は、重症心身障がいや発達障がいのお子さん達が通う多機能型支援事業所です。

近年、医療技術の進歩により医療的ケアを必要とする子ども達が増加しています。しかし、医療的ニーズや重症児支援に特化した事業所は県内でも少なく、身近な地域で支援を受けることが出来るきらり中庄「ひかり」の存在は、今後の重症児支援のモデルになると考えています。

きらり中庄には、保育士・介護福祉士・看護師・機能訓練指導員といった様々な職種がいます。それぞれの職種の専門性を大切にしながらも、互いに尊重して関わっていくことは、多職種で支援をしていく上でとても重要です。職員も子どもも“自分らしく輝ける場所”となるよう、ドキドキ・ワクワクを子ども達と一緒に感じ、心に寄り添った支援を行っています。「身体が少し動いた」「表情が少し変わった」「呼吸がいつもと少し違う」といった様々なサインに気付き、それに対する様々な視点での考えを出し合いながら、子ども一人ひとりの可能性を見つけ、伸ばし、将来の選択肢に繋げていけるよう取り組んでいます。

5. あなたの

地域の姿

住民が一体となって
りごとを解決し、
域」をともに創っている
”という誇り。

源を活用した
支えあい」を
とりが実践中。

自信が、だれかの安心になる。

6. ハンディキャップのない街へ。

クムレ 10 の心得の実践者

『居場所“ゆる～く・楽しく”』



倉敷発達障がい者支援センター
精神保健福祉士
福本 正俊

倉敷障がい者支援センターでは、倉敷市全域の発達障がいについてお困りの方々のお悩みを一緒に考えること、また発達障がいについて市民に正しい理解を深めてもらうことが役割です。日々の支援の中で、引きこもり状態の方々からご相談を受けることもあります。集団での活動に苦手さがある、人と上手にコミュニケーションをとることが難しいなど、地域から離れての生活を余儀なくされている現状があります。しかし当事者の方が社会生活を再開すると決意されても、周囲からの理解が不十分であることや社会資源が十分でないことなどから、乗り越えなければならないハードルは非常に高く、大きな負担となります。そこで社会に出る前に、自身と似た境遇を分かち合える仲間と共に、様々な活動ができる場が必要と考え、令和２年 12 月より楽しく集える居場所を開設します。具体的には映画鑑賞会や職員によるプチ講座、テーマを設けた座談会などを企画しています。また自宅から出ることが難しい方には、まずオンラインで参加してもらい、ご自宅に居ながら安心して参加できるように考えています。自宅からの参加→居場所現地への参加→実社会への参加とステップアップできるような場にしていきます。また将来的には地域の方にも参加してもらい、普及啓発を行う予定です。これからも障がいのあるなしに関わらず、全ての人が心豊かで、あたり前に日常生活を送ることができるやさしい街を目指します！

7. 圧倒的な“安心・安全”を。



倉敷学園　管理栄養士
下津 愛理

8. 有言実行という、あたり前。

クムレ 10 の心得の実践者

クムレの一員という自覚を持ち、チームの意識を持つ！

今年度４月新入職員としてクムレに採用後、あしたばに配属され、９月から倉敷学園に異動となりました。あしたばでは、委託運営での給食提供であったため調理を覚えるというより、盛り付け方法や衛生管理などといった給食提供の基礎的な業務を学びました。倉敷学園はあしたばとは異なり、直営による給食業務のため食材を一から切り、調理し、盛り付け、提供という流れになります。私自身新入職員であり直営の厨房も初めてで異動してから毎日わからないことばかりでした。

あしたばや倉敷学園でも「わからなくて当たり前」「わからないなら何でも聞いて。聞いたらその都度、学ぶことが出来るのだから」という言葉を何度も言っていただきました。日々の業務を通して、自分が思っている以上に今でも報（告）・連（絡）・相（談）がまだまだ出来ていないと感じることが多くクムパートナーに厳しく指導していただいています。この厳しい指導が、栄養士としての職業人生を歩んでいく上で、将来の糧になることを身に染みて感じます。クムパートナーや厨房職員、倉敷学園の期待に沿えられるように、これからはこれまで以上に責任を持って、業務に取り組んでいこうと思います。日々新しい業務を与えてもらっているので、自分がやると言ったことは最後までやること。これこそが「有言実行という、あたり前」つまり「責任を持つ」ということだと思います。

倉敷

育 はぐくむ

7. 圧倒的な“安心・安全”を。

愛着の形成は自立の形成
その子らしく生きていける地域づくりを目指します

「育む」は、児童期の子育て支援を行う事業所が集うカテゴリーです。

何らかの障がいや発達の遅れがある児童期の個別療育、集団療育等を通して、生活自立に向けて支援を行います。重症心身障がい児や医療的ケアの必要なお子さんは看護師による医療的ケアも行います。事業所を超えて、専門職が多岐に渡って関わり家族の安心に繋げています。家庭や園、医療機関等との連携も密に行い、地域との協働のもと子育てができる社会つくりを目指しています。また、企業主導型保育所も併設しており、働きやすい環境を職員や地域に向けて提供しています。

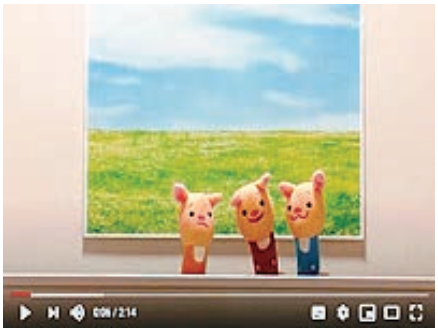
法人の理念“ともに育ち　ともに生きる”から、誰もが安心して子育てをすることができ、子育ても親の自由な選択をしていける社会を作りたい。どんな親子にも笑顔がたくさんあふれてほしい、地域の中で健やかに育ってほしい。そういった思いから、同じ地域に障がいを持った子どもも大人も一緒に生活する居心地のいい地域共生社会の実現を目指しています。

新型コロナ緊急時の今　～地域や家族へ伝えたい私たちの役割～

新型コロナウイルス感染拡大で、登園の自粛や危険の不安を抱え親だけでなく子どもも疲れやストレスがたまる状況です。自ら積極的に運動したり遊んだりすることが難しい障がい児や医療的ケア児にとって他者からの刺激は成長に欠かせないものです。免疫力の低い乳幼児は感染リスクも高いので外出もままなりません。

そこで、「私たちに何かできることはないかな?」と職員みんなで知恵を出し合い、動画を配信することにしました。見ている子ども達の顔を思い浮かべながら、スタッフが普段行っている手遊びや人形劇、手づくりおもちゃの作り方やおすすめクッキングメニューなど配信しました。「先生の顔を見て安心した」「手洗いや歯磨きの歌はお家でも役立っています」など、私たちの想いがご家庭にも伝わったことをうれしく思い、ICT が地域や家庭とのよりよいコミュニケーションツールの一つとなるよう続けていきたいと思っています。

2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。



「3 匹のこぶた」のゆび人形シアター

地域の中で育つことの大切さ　～地域の中で育つ子ども達～

クムレの田んぼに今年もすくすくと稲が育ちました。

地域の農家の方のお力添えの元・・・苗植えから始まり暑い日も寒い日も、職員も地域の方と一緒に作ってきたクムレ米・・・

給食やカフェの食事など、みんなで美味しくいただいています。

職員も小さい頃、田んぼの中で思いっきり走ったりわらにうもれて遊んだりした経験を思い出し、今回稲刈りを終えた田んぼで遊びました。

「楽しい～なんか匂いがする」「サクサクいってる」

全身で五感をしっかり働かせて思いっきり楽しみました。

「いつでも田んぼに入って遊びなさいよ」と言ってくださる地域の方の理解があるからこそ豊かな生活体験ができているので感謝しています。



あぜ道を通って散歩中



クムレ米の稲刈風景



しめ縄用に稲の青刈り

倉敷

歩 あゆむ

人の繋がりが私たちの自信になり、地域の安心になる 5. あなたの自信が、だれかの安心になる。 そんな人生の「歩み」を目指して

お互い様で暮らせる地域、3. この街を、もっと愛そう。の実現に向かっている、今！

私たち「歩む」カテゴリーは、地域住民と共に「お互い様（支え・支えられ）」の関係の中で暮らしていけるように、地域との交流を大切にしています。「歩む」の目的は、「人生の中で、その人に多くの人が関わり、多くの人が財産となり、人生の歩みを切れ目なくゆっくりとしたペースで、住み慣れた地域でその人らしく生活できる」。それは、障がいのあるないに関わらず、人は一人では生きられないからです。障がいを、「個性」と捉える言葉をよく聞きますが、生きにくさや生活のしにくさがあるのは現実です。幼い頃からの経験や人との関わりが、「本人の強み」を伸ばし、「本人の困難さ」を軽減することができ、何事にもチャレンジする自信に繋がります。そして、地域の方との関わりや理解が増すことが、自分らしく生きることの第一歩に繋がります。

様々な経験や体験を通して対応力を身に付けることも、地域で生活することへの実現と考えています。コロナ禍の中、マスクやソーシャルディスタンスなど、新しい生活様式に変わりました。生きにくさは市民の誰もが感じており、障がいがある方も同じです。世の中の変化を恐れず、幼い頃から経験を重ねていくこと、そして多くの方の理解も得ることが、「お互い様の地域」の実現と信じて、この街をもっと愛する活動を、今後も続けていきます。

6. ハンディキャップのない街へ。を通して広がる地域との交流

私たちも人や地域を支えることができる存在になる、地域のお役に立てることがないだろうかと、3年前から、プランターに季節ごとの花を植えて地域の小学校、中学校に置かせていただいています。生徒や先生が花を見て癒され、私たちの存在を知ってもらうことを目的に始めました。毎日の水やりや草取り、あいさつを通して、今ではお互いのイベントなどでの交流も増えてきた中、コロナ禍の中で交流が途絶えそうになりました。しかし、お互いができる方法で交流が継続できないかと、お花の活動を再開し、DVDでの吹奏楽部の演奏など、新しい生活様式の中で取り組みを続けています。今では庄新町でオレンジカフェ（笑いヨガ、演奏会、座談会など）を開始するなど、全世代10代から90代の方との交流を、様々な方法で深めています。



水やりの風景

体験や経験を通して、将来の夢の実現に“GO”

多くの経験や体験が人生の財産になると、放課後等デイサービスの中高等部の児童を中心に、クムレの就労継続支援B型「やさい畑クムレ」での農業体験、「クラシス」での清掃活動やカフェでのお手伝いを通して、経験を深めています。失敗すること、上手にできたことを繰り返しながら、「2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。」をもって多くの可能性を秘めている子ども達は、様々な経験を通して、将来の夢へ向かって頑張っています。



将来の就労に向けて農業体験の風景

地域には多くの先生がいます、地域の力はすごい

地域には多くの先生がいます。私たちが経験できないことを経験させてくれます。陶芸の先生は、地域のおばさんです。土をこねる・叩く・押す・ちぎるなどを通して、冷たい、硬い、柔らかいなど、土の気持ち良さを教えてくれます。箸置きやお皿、「何だろう、これは？」と、いうものまで作れるようになりました。先生も「私の生きがいですよ。」と、お互い様に陶芸を通して人生を楽しんでいます。他にも、音楽の先生のリズムや楽器遊び、ダンスなどもあります。今後も地域の先生を通して、生きがいを増やし、人生を楽しんでいきます。



陶芸活動を楽しむ風景

倉敷

働 はたらく

1. ただ仕事をこなすのではなく、“志”を持って働こう。

楽しいから働きがいに、そして生きがいに！

クムレ倉敷拠点「働く」カテゴリーは、利用者が一般就職することや納税者になること、障害年金に加えて、最低限自立した生活に必要なお金として工賃３万円を目指しています。

そのために目標にしていることが３つあります。１つ目は「ホンモノ」になるということです。障がいがあるからこのくらいの仕事でいいだろうではなく、障がいがあっても一般の会社と同水準かそれ以上の仕事を目指していこうというものです。「ホンモノ」を目指すからこそ就職や納税者が見えてくると考えます。２つ目は利用者の強みを生かした仕事づくりです。人間だれしも得意・不得意、得手・不得手があります。本人が一番輝けて力が発揮できる仕事を見つけ、なければ新たに作ります。一人で一つの仕事を完結できなくても、一人ひとりの強みを組み合わせて一つの仕事を成し遂げることも立派な仕事であると考えます。３つ目は社会との繋がりを持つということです。障がいがあるから事業所内での作業でいいという考えはありません。地域の住民として自分らしく生活するために、地域の方との交流や仕事を通して地域の役に立つことが働きがいや生きがいに繋がると考えます。これらの取り組みを通して、仕事は楽しいと感じることができ社会人として成長すると考えます。一人ひとりが主人公で、自分の人生の主人公は自分です。親でもきょうだいでも支援者でもありません。自分の「夢」を持ち、その「夢」に向かって努力し続けることを支援者はそばで支えていけるように支援者自身も成長し続けていきます。

2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。へのチャレンジ!! 失敗は成功のもと。

本年度、クラシス利用者から１名、（福）クムレとの雇用契約に基づく直接雇用へ移行されました。２年前、一般企業での就労を目指すことを働きかけたことがきっかけで、生活介護事業所コトノハ厨房での作業実習を開始しました。

働き始めてコトノハ管理者から、これまでのパートタイマーの方と遜色ない働きぶりとの評価と、折角だからぜひ継続して働いてほしいとのお話をいただきました。

もちろん、ご本人には環境の変化に対する不安や戸惑いがあったとのこと。ですが、「やる」と決めてからは、これまで以上に業務に取り組み、５月１日より正式に我々クムレの同僚として採用になりました。

クラシスでは利用者朝礼でも“クムレ10の心得”の唱和を行っていますが、現実に「2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。」「8. 有言実行という、あたり前。」を実践してくださる方が現れ、就労支援のやりがいを今、改めて感じています。



チームワークで頑張るぞ！

3. この街を、もっと愛そう。へのチャレンジ!! 地域×福祉への取り組み。

地域共生社会に向けて、総社市山手住民の居場所づくりや食育、福祉の啓発を目的として、総社市社会福祉協議会や総社市山手地区社協との連携を行いながら、「山手やさい畑食堂」の実現に向けて話し合いを進めています。実現すれば社会福祉法人が主催する食堂は総社市初です。具体的には、やさい畑で収穫した野菜を活かしたメニューの提供、野菜の収穫体験、食堂に来られた地域の方とやさい畑クムレの利用者と一緒に作業や食事等を考えています。

上東地区では地域の方の健康維持・増進に向けて環境を整えています。「まちかどじむクラシス」として事業所２階に、血圧計・ルームランナー・エアロバイク・卓球台を整備しています。もちろん、職員や利用者も使えますので、いつまでも働ける体づくりを応援したいと思います。

住み慣れた地域でいつまでも楽しく暮らせるよう、この街がもっと好きになってもらえるような価値を作っていきます。



やさい畑で初めて葉もの野菜が採れました！

倉敷 暮 くらす

6. ハンディキャップのない街へ。

一人ひとりの生活を見つめ直しています

倉敷拠点のコンセプトである「居心地のいい地域（人と人を繋げていく・地域づくり）」の実現に向け、障がい者支援施設あしたば、共同生活援助事業所クムレも役割や機能を大きく変えるときが来ています。

措置制度時からの施設の中だけで障がいのある方の生活が完結する支援・サービスの提供の形や、一度入所すれば最後までその施設で生活が出来るとの考えから、現在・これからは住まいの施設も通過施設であることをご本人・ご家族等へもお伝えし、障がいのある方一人ひとりの希望する生活の実現に向けて体制・仕組みづくりを行っています。

地域での生活をしていくためには、公的な福祉サービスだけではご本人の望まれる生活の実現は出来ません。地域の方の見守りやご協力のもと、障がいのある方も地域の一員として参画していくことが出来る地域づくりを目指し、地域資源の活用や催し物、地域の行事等に出向いていきます。そして建物も「施設」ではなく「生活の場」としての機能を有していくとともに、災害等有事の際の福祉避難所としての機能・役割も果たしていきます。

一人ひとりが希望される生活を実現していくためには、障がいのある利用者ご自身の「声」は欠かすことが出来ません。コロナ禍での制限ある生活から、with コロナでの生活様式に変化していく中で、一人ひとりの生活に向き合う良い機会になっています。法人の大切にしている支援観「自立・尊厳・ハビリテーション」を念頭に、何がしたいのか、どのような生活をしたいのか意思をしっかり聞き取り尊重し、一人ひとりのありたい姿を描き、地域の方と共に、実現に向けて個別の支援を行っていきます。

2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。 施設・生活のあり方を見直しています。

あしたばは 50 名の障がいのある方が過ごされている入所施設ですが、障がいがある以前に、一人の人間であることの人権を尊重した支援を心掛けていきます。今年度は大人数での集団生活から、10 名程度のユニットでの生活スタイルへの変更を行っていきます。現在の多床室から個室への変更により、利用者一人ひとりの希望を伺ったり、選択していただく機会を設けたりし、ご自宅や一人ひとりの好みや希望に合わせた居室環境の設定を行っていきます。コロナ禍である今年度のような感染症が流行する時期を見据えての利用者の健康を守る体制も整えていきます。

職員もこれまでの支援や働き方から、更に一人ひとりの思いに耳を傾け、実現に向けて個別の支援を行っていきます。少人数単位での支援体制の組み立て、個別支援の更なる充実を果たしていきます。しかしながら、施設職員だけでは利用者の希望される生活の実現は難しいです。休日はボランティアの方等と地域のお店などに出かけたり、あしたばにて一緒に過ごしたりするなど、１日の過ごし方も少人数単位や個別支援により大きく変化し、１日１日が充実した生活を送ることが出来るように転換を行っていきます。



あしたば外観

3. この街を、もっと愛そう。 地域の中で生活すること。

今年度のコロナ禍において、昨年度まで行ってきていた地域の方との夏祭り行事、公民館活動、児童の登校時の立ち番など、普段からの顔の見える関係づくりが難しくなっています。そのような中でも、地域の環境整備・清掃活動には入居されている利用者の方も参加の希望を募り地域の一員として参加を試みるなど、新たな地域との関係づくり・顔の見える関係性づくりを目指しています。

このコロナ禍の状況の変化に柔軟に対応し、障がいのある方が生活する地域において、障がいのある方の生活の中に、地域との繋がりを更に強く根付かせていく取り組みを進めていきます。



過年度の行事写真



過年度の行事写真



過年度の行事写真

倉敷 繋 つなぐ

地域の人々が、6. ハンディキャップのない街へ。を、始めている

2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。

人々の暮らしや地域のありかたが多様化し、2020 年に入りさらにコロナ禍の中新しい生活様式を歩まざるを得ない私たちの暮らし。このような変化に伴って生じてきている地域の課題に対してアンテナを張って敏感に感じ真っ向から向かっていきたい。地域で暮らす人々を孤立させないこと、暮らしていく上での楽しさ、ちょっとした喜びが実感できるような地域社会を作っていきたい。これまでの「施設完結型」の事業から、地域を頼りあてにして社会資源を繋ぎ、地域の人々が主体的にかかわっていく福祉を実現したい。地域の頼もしいキーパーソンを探し、生活の中から課題解決できる楽しい地域つくりを目指しています。

孤立や生活のしづらさから生じる生きづらさ、家族の様々な困りごとに対して、受け止め一緒に課題解決を考えていきます。人生 100 年時代となり、社会との繋がりの場や働く場の環境も法人内に整え、様々な地域の方々の生きがいに繋がっています。私たち福祉専門職だけでなく私たちも地域住民の一員であることを自覚し、地域の人々と一緒に取り組んでいきます。

2020 年コロナ禍の中で人々が顔を合わせる機会は減少しました。しかし、オンライン・ＳＮＳ等新しい媒体で今まで取り組めなかった相談にチャレンジする機会に恵まれました。マスク作りを通して障がいがある人とともに取り組む経験も得ています。常に先を見据え、変化を恐れず自ら行動し、どんな福祉ニーズにもこたえていきます！

自分にもできることを見つけやりがいを感じながら活躍中



裁断や縫製など得意分野で力を発揮



大切なマスクを丁寧に仕上げています

コロナ禍のマスク不足で日本中が困り感を抱えていた時「総社デニムマスクの製作を手伝ってほしい」という依頼を総社市長からいただきました。就労Ｂ型事業所だけでは難しい為、クムレいきいきボランティアを通して募集したところ、地域の方や保護者の方が積極的に参加してくださり、新たな活躍の場となりました。今では「ないと寂しい」と言われるほどの活動になっています。

3. この街を、もっと愛そう。の強い想い。ないものはつくる精神が大事！

将来の福祉を担うＳＷ実習生の皆さんに少しでも多くの事を学んでいただきたいと思い、クムレ内で行われている事例検討会に参加していただきました。グループワークでも活発に意見交換してくださりフレッシュな目線が入る事で職員にとっても良い刺激となっています。コロナ禍で抱える不安や地域のニーズはさらに多様化していますが、だからこそ色んな人で意見を出し合って「ないものはつくる精神」でチャレンジし続けたいと思います。



クムレ生活相談センター会議にて



地域公益活動推進ミーティングでの
グループワークの様子

地域のあったらいいなを探し中！



↑赤提灯



↑女子会

地域の方に呼びかけをして、毎月一回「赤提灯」を開催しています。美味しい食事とお酒を楽しみながら色んな話をして盛り上がります。時には「ジジバババンド」の演奏や「流しそうめん」等イベントをしたり大人も子どもも楽しめる内容になっています。また、なかなか夜の赤提灯に来られない女性のために昼間の赤提灯「女子会」も開催しています。美味しいお茶菓子に心癒される楽しいひと時を皆さんと過ごしています。

クムレの公益的な取り組み

地域との交流活動及び美化活動





障がいへの理解促進、ボランティアの養成、地域交流のために、利用者とともにサロン活動や清掃活動に参加。
地域の小・中学校の花壇のお世話をすることで地域と利用者の交流行事をしている。



地域交流イベント開催

地域共生社会の実現に向けて、住み慣れた地域で皆が健康で暮らしやすい地域にする為に赤提灯や、花火大会などのイベントを開催している。



地域開放事業（サロン）等

地域開放事業として実施しているにじいろサロンは、年間概ね 6000 名が利用。地域の方が気軽に集まり交流できる場を提供している。



オレンジカフェ

認知症予防、介護予防、健康維持促進を目的にストレッチと自力整体を合わせた運動を行う場をひろば栗の家カフェにて実施している。



地域住民の居場所づくり事業

川崎医療福祉大学直島講師とそのゼミ生との協働で、フィールドワークを実施。多世代が気軽に集まる多機能型の居場所づくりを目指している。

福祉避難所としての要配慮者支援と災害時の物資の補充

福祉避難所として、医療的ケア児や地域の乳児・妊産婦が、安心して避難できる場所の確保と環境を整備していっている。
また、災害時の物資の補充として、小型発電機を購入。有事に備えて使用方法を学び、両拠点での災害に応じた電気の確保の対応についても今後考えていく。





放課後の居場所や地域子育て発達支援



放課後の居場所「ほっとステーション」を児童発達支援センタークムレ親子棟1階の居室及び園庭等を利用して実施している。また、利用終了児を対象に「課外活動」や地域の小学生の居場所作りとして「栗サークル」を開催。倉敷学園利用児のきょうだいと倉敷学園卒園児と保護者が集える場として「きょうだい児の会・卒園児の会」、福祉を利用していない小学生を対象として「マロンくらぶ」等の支援を実施している。



子ども食堂（ひだまりカフェ）

社会経験が少ない児童や、他者と関係を築くことが苦手な児童を対象に、子ども食堂(ひだまりカフェ）を月に１回開催している。

事業所案内

水島拠点

私たちのありたい姿
～笑顔で子育てできる＝みんな

10.“クムレ”という誇り。

5年

「“ごちゃまぜの支え

地域共生
クムレ
“ともに育ち
地域社会の皆（市民）



小ざくら第二保育園
主任
橋本 昌子





クムレ10の心得の実践者

すべての子どもと家族の笑顔

近年、少子化･核家族化が進み、孤立した子育て家庭が増えています。そこで私たちは、地域に住む子育て家庭の家族が笑顔になることを目的に、妊娠期から学齢期までの切れ目のない支援に取り組んでいます。

妊娠期から乳児期においては、親子の愛着形成を育めるように、年齢発達に応じた丁寧な保育の実践をしたり、母親の困りごとに寄り添い、子育て力アップできるように支えたりしています。

幼児期においては主体的に遊ぶ力が育つことを目的として、五感を通して子どもの心と身体の育ちをはぐくむ保育、発達支援を行っています。

学齢期においては、子ども達が安心して過ごし心が豊かになることを目的として、多様な居場所作りをしています。こういった関わりを通じて、子どもが成長し、笑顔になることで、その家族も笑顔で安心して過ごせることを目指しています。また、ひとり親家庭や、DV被害者、生活困窮者などの様々な家庭環境にかかわらず子どもが心身ともに健やかに成長できるよう、様々な支援を行っています。

私たちが関わるすべての子どもとその家族が笑顔で過ごすことができるように今後も取り組みを続けていきます。



小ざくら小規模保育園
主任
成田日都美

4.団結力を身につけよう。

クムレ10の心得の実践者

移動型のまちの図書館「にじいろ図書カー」

法人発祥の地である水島は、戦後の高度経済成長の波に乗り、日本有数の工業地帯として大きく発展しました。地区の中心に位置する水島商店街は昼に夜ににぎやかで、多くの商店が軒を連ね栄華を誇っていました。やがて、バブルが崩壊し、リーマンショックが起こるなど、経済の先行きが不透明さを増す中、地域の高齢化も相まってそのにぎわいは次第に失われ、また、郊外に大型商業施設が出店するなどの影響を受けて、水島商店街はシャッター通りとなっていきました。子ども達の声が消え、大人たちの活気も消え、すっかり様変わりしたまちをなんとかしようと、地域の方々とともに高齢者サロンの立ち上げや、三世代交流事業などに協力してきました。平成30年度からは、川崎医療福祉大学と協働で地域調査を行い、地域の多世代が集まれる居場所「まちの図書館」のプランを提案しました。その実現へ向けた第一歩として、令和2年12月に移動型のまちの図書館「にじいろ図書カー」を地域の小学校の学童保育から実施します。本や漫画、駄菓子などとともに子ども達に楽しみを提供すると同時に、地域の皆さんにも本の寄付や運営の手伝いなどで活躍してもらい、また子どもから保護者の方と繋がることで様々なニーズを拾い上げ、多くの関係機関や企業などと連携しながら次の活動・支援に活かしていく。そのような支え合いの場にしていきます。この地に住む誰もが笑顔になれますように――それが私たちの想いです。



小ざくら第二保育園
園長
村川 大介

安心

“Our Smile ”
が笑顔になれる地域づくり～

後の姿

合い”が笑顔に繋がる」

社会の実現
の理念
ともに生きる”を
と一緒に育んでいます



信頼

2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。

クムレ 10 の心得の実践者

私たちも日々進化中

「我が子の発育が気になって…」「発達がゆっくりなのかな？」「どうしてこんな行動するんだろう？」

乳幼児期の保育・発達支援の事業所が立ち並ぶ水島拠点に、通っているお子さんのご家族だけでなく、地域のご家族からも相談に来られる方がいらっしゃいます。そんな時こそ私たちの出番！離乳食や偏食等「食」に関することは栄養士が、お子さんへの関わり方等「育ち」や「遊び」に関することは保育士や発達支援スタッフが、地域の資源を知りたい方は相談員が、疾患等に関することは看護師が、時には法人の作業療法士（OT）理学療法士（PT）言語聴覚士（ST）が、それぞれの得意分野を活かしながら、お子さんの『子育ち』とご家族の『子育て』を応援します！！



例えば、保育園に通っていて、クラス活動にお友達と一緒に参加することが苦手なお子さん。困っているのは、担任でも周りのお友達でもなく、お子さん自身です。事業所の枠を超えて、安心できる環境を考えたり、関わり方の工夫を話し合ったりして、“その子がその子らしく　笑顔で日々過ごせる”ことを目指したチームプレイを今後も継続していきます。原動力は、お子さんや家族、そして私たちスタッフの笑顔。支え合い、学び合い、笑い合いながら、私たちも日々進化中です。

きらり水島管理者
川上 亜仁

7. 圧倒的な“安心・安全”を。

8. 有言実行という、あたり前。

クムレ 10 の心得の実践者

地域の子育て情報「にじいろチャンネル」

ひろばにじいろは、地域の親子が気軽に集い、子育てに関する情報を得ながら色々な人と関わったり、経験したりすることで、親子が笑顔になれる楽しいひろばです。しかし、まだまだそのような場や取り組みを知らない方がいらっしゃったり、コロナ禍で外出を控えたりすることで、人との関わりが減り、経験不足やストレスを抱えている親子が増えているようです。

そこで、家にいても子育て情報をキャッチでき、楽しく過ごせる取り組みとして、ローカルで身近な情報発信（ＦＭラジオ的）「にじいろチャンネル」の開設が実現できたらと考えています。主役は地域の親子、住民です。欲しい情報、伝えたい情報もすべて住民目線！「お散歩スポット！近くの〇〇公園の紅葉が見ごろ」とか「〇〇さん宅に犬の赤ちゃんが生まれた」「水島商店街の店のＰＲ」等…。情報を集めるのは地域の住民一人ひとりです。取材を通して、地域の情報や関心ごと、時には課題や困りごとなども見つかります。みんなで繋がる“にじいろチャンネル”を通して、近い将来、水島地区の子育て親子、地域住民、シニア世代が一緒に集い、支え合うことで笑顔あふれる居場所へと発展できればと考えています。

にじいろサロン管理者
尾崎 暁代

水島

育 そだつ

生まれる前からの愛着形成を家庭とともに共有し、子ども達の健やかな心と体の育ちを支えます

「育」のカテゴリーでは、子どもが楽しく過ごし、健やかな育ちを支えるために、妊娠期からの愛着形成～生まれる前からの切れ目のない支援（隙間を埋める）～と、子育て支援拠点事業を中心とした母親の子育て力アップの取り組みの実施、子どもの年齢発達に応じた丁寧な保育・発達支援（ゆるやかな担当制保育）を行っています。

親子の愛着形成を基盤に、日々笑顔で生活できるような子育て支援を目指し、母親の不安や困りどころに寄り添ったり、関係機関や地域住民と一緒になって支え合うことで、「お母さんの笑顔が子どもの笑顔に、子どもの笑顔がお母さんの笑顔に」繋がることで、親子がともに育ち、地域全体が笑顔で安心して子育てできる環境作りに取り組んでいます。

祝福から始まる子育て支援（プレママ day）



先輩ママが得意を活かして胎教に良いことをプレゼント



お腹の赤ちゃんへ思いを込めてカード作り

妊娠が分かった時から、小さな不安や困り事などを当事者同士で話したり、気軽に相談できる場を設けたりして、だれもが安心して産み育てることができるような取り組みを行っています。先輩ママがピアサポーターとして活躍してくださり、妊婦期のお母さんの不安解消に貢献してくださっています。

ほっとできる場の提供

ひろばにじいろでは地域の親子が気軽に集い、母親同士の交流や保育園体験などをする中で、育児のこと、発達のこと、気になること等々 … を職員も一緒に考えています。先輩ママからの力強いアドバイスや SNS を活用した子育て情報の発信をし、母親の子育て力アップを目指した活動を行っています。



わくわくドキドキ　保育園体験♪



保育園の同じ年齢の子どもと一緒に給食 Time

三世代交流を通じた協働



地域のボランティアさんがクリスマスにサンタとトナカイになって登場！！



コミュニティー会館で一緒に体操 Time

地域の人々が集い交流できる場を提供しています。シニア世代と親子が交流することで、生活を通した繋がりが増し、コミュニケーションを通して互いが元気になります。また、講師を招いて子育てに関する講座や先輩ママの得意を活かした講座なども実施し、地域の中で支え合いの活動も行っています。

水島

遊 あそぶ

子どもの年齢発達にふさわしい心と身体の育ちを支えます

「遊」は、乳児期に育んだ心の育ちを土台にし、「育」「遊」カテゴリーの繋がりを大切にしながら、０歳児から５歳児までの一体的な保育の実践をしています。年齢発達にふさわしい保育・発達支援をするために子ども達の興味や欲求に応じた玩具や教材を用意し、じっくり遊べる時間を保障しています。また、季節を遊びに取り入れて五感を働かせながら「楽しそう→やってみたい→できそう→できた」と積み上げて、自信や満足感が持てるようにと様々な遊びを計画して取り組んでいます。

成長がゆるやかであっても同じ子どもとして発達の保障をするために、その子に合った環境や支援をすることで、安心して過ごせる場所や見通しを持って生活できる環境づくりをしています。特別な配慮を必要とする子どもには作業療法士や言語聴覚士など専門職のアドバイスを得て支援をすることで、園や家庭でその子らしく楽しく過ごせるようにしています。

楽しいことや悔しい経験なども、友達や先生の励ましでお互いの良いところを認め合い、主体的に育つ力を発揮できる子どもを育てることが私たちの望みです。遊びの中での学びを大切にしながら自己肯定感を高め、小学校就学への心と身体の準備を進めていきます。

発見！！



こんなに大きいよ！



ゴッホの「ひまわり」みたい

小ざくら第二保育園でジャンボひまわりを育てました。水やりを欠かさず世話をすることは大変でしたが、子ども達の熱意に応えて大きくなって子どもの身長と比べると二人分もありました。種をとり、匂ったり皮を剥いて観察したりと、子ども達の五感を刺激することができました。

小ざくら保育園もジャンボひまわりが大きくなりました。水遊びで黄色や緑の染め紙を作り、本物そっくりのひまわりが完成しました。ドキュメンテーションで保護者に見てもらいました。皆さん、大きさにびっくりでした。

おじいちゃん　大好き



どこにあるかな？みんな集中

保育園には地域のおじいさんが遊びに来てくれています。

七夕会、クリスマス会、しめ縄づくりなどに来てくださり、子ども達と遊んでくださいます。子ども達はおじいちゃんが大好きです。お正月遊びで「いろはかるた」に挑戦しています。

おじいちゃんの声に耳を澄ませて絵札を探しました。間違えて取っても気にしません。どのグループも大笑いしながらにぎやかな時間を過ごしました。

水島

学 まなぶ

子ども達が自らの力を信じ、豊かな人生を歩みだせる地域を目指します

「学」のカテゴリーでは、人口約９万人が暮らす水島地区において、主要施設が集まる水島エリアを中心に地域で子ども達を支え育みながら、安心して社会と関わりを持てるような居場所づくりに取り組んでいます。

乳幼児期において大人への信頼感が育ち、経験の中で自律性や自発性を培った子ども達は、学校や家庭で、学ぶ方法や楽しさを発見し繰り返しながら、自信の獲得や自らの能力を把握します。そして発達や身体能力、家庭環境の違いにより、経験値に大きな差が出る場合は、個々の違いに気づき、子ども達が自ら考え、社会や将来にかかわる行動に出られるようサポートします。

「ほっとステーション」

学齢期の子ども達は、勉強や運動、生活習慣や対人関係において大人のサポートを必要とする場合があります。学校や家庭に限らず、地域全体が子どもを支える仕組みが求められています。

「ほっとステーション」は、「思いきり身体を動かし遊ぶことができる」「自分の事を話すことができる」「自分のペースで活動できる」と感じられるように、地域の児童館や公民館を会場として学齢期の子ども達の居場所を作ります。クムレの職員中心ではなく、地域で子ども達に寄り添い支えている町内会の皆さん、学童保育の支援員さん、主任児童委員さんや愛育委員さん方と共に、地域全体が子ども達の居場所となることを目指します。



アネビー遊具登場



室内でも身体を動かし元気に遊べます

「ひだまりカフェ」

年齢や通う学校が異なる子ども達が、地域のボランティアや学生などの大人と一緒に食事や遊びなどの体験を通じた交流を行っています。自分らしく認められる環境の中で経験を重ねることにより、子ども達の自信が増すことを目指しています。



いっしょに　いただきます☆



冷麺　～好きな食材をトッピング～

水島

暮働

くらすはたらく

子育て家庭の自立を支え、親子が安心して暮らせる土台作りをサポートします

「暮働」カテゴリーでは、ひとりで子育てや仕事に奔走しているひとり親が地域から孤立してしまわないよう、**当事者、地域住民、関係機関が一体**となって、必要な支援がひとり親家庭に届く仕組みづくりと新たな資源の創設のためのネットワークづくりを行っています。

育つ環境に関わらず、子どもが心身ともに健やかに成長できるように、ひとり親の経済的負担を減らす取り組みや体験の機会の提供、また、ひとり親家庭の生活基盤を整えるため、就労訓練事業（中間的就労）の認定を受けた各事業所での就労やハローワークとの連携による就労支援、居住支援法人の指定を受けて賃貸住宅入居を支援しています。更に、ひとり親家庭だけでなく、何らかの事情がある親子が緊急的にショートステイできる部屋の整備へ向けて取り組んでいます。

カンガルーカフェ（ひとり親交流会）

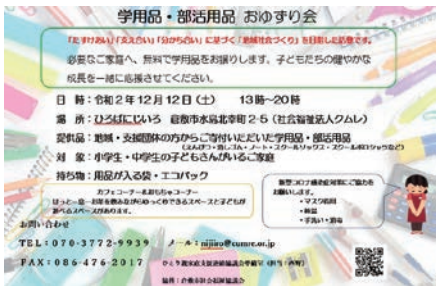
当事者同士の支え合いを目指し、子どもが楽しめる場に親も参加できる機会を作り、当事者同士が交流できるような活動を行っています。互いの子育てについての頑張りや大変さを共有し合い、顔が見える関係づくりのきっかけ、今後も支え合える仲間づくりの機会となればと思います。



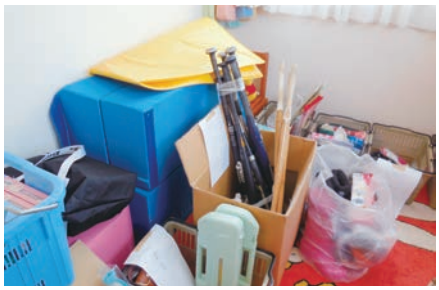
7月 親子デイキャンプ

パントリー（学用品・日用品のリサイクル）

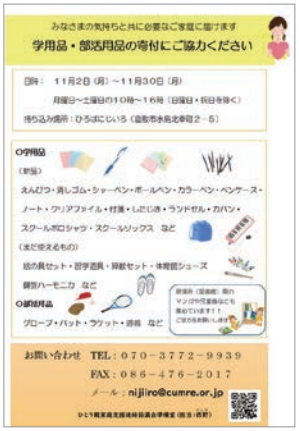
地域の支え手を増やし、**住民同士の支え合い**を目指した活動です。必要な家庭に必要な物が届き、経済的負担軽減とともに子どもに物を大切にする感性を育むことも大切にした活動です。



必要と思われるご家庭への品物提供お知らせのチラシ



地域住民の方から提供された品物



品物の提供への協力を呼びかけたチラシ

研修会の開催

支援者はもちろん、地域住民、関係機関（行政）等とともに学び、必要な支援や取り組み等の話し合いを通して将来的には**ともに必要なモデルを作る**ことも目指して活動しています。岡山県立大学の近藤理恵教授を講師に迎え、「子育てをめぐる地域の現状と課題」～ひとり親家庭支援を考える～と題した講演会を実施し、32名の参加がありました。ひとり親家庭の現状を学び、ひとり親家庭に向けて地域でできることを考えるきっかけになりました。







9月 研修会

水島

繋 つなぐ

子どもと家族、そして地域を支える仕組みづくりに向けて

「繋」カテゴリーでは、子どもを中心とした関わりを行う中で、その家庭や地域全体を支えていく必要性を日々感じ、地域や家庭全体の幸福感が子どもの幸福感へと繋がることと目標を立て、様々な取り組みを行っています。

この目標は、クムレだけで実現できるものではなく、地域の全世代に対して活躍されている多職種多機関においても同じ方向を向いていただき、水島地区全体で支援できるよう、ご理解をいただいているところです。

「全世代包括型の相談支援体制」の構築から、今後は現状の機関に加え医療分野との連携も行い、全職員が同じ方向を向き、水島地域全体の機関が「断らない相談」を実現できるような繋がりを続けていきます。

多職種多機関との顔の見える関係性作り　～外部事例検討会～

支援機関同士が、ごちゃまぜで「相談したいときに相談できる、顔なじみの関係」となるために、子どもに関して何でも相談できる「子ども何でも相談センタークムレ」と外部機関との事例検討会を実施しています。現在では行政、保健、福祉、教育も含め、14 機関がご賛同くださり、様々な世代における事例の現状や取り組み、課題を共有する場ともなっており、自由な意見・情報交換の場ともなってきつつあります。



事例検討会
現在は密にならない状況での実施をしつつ、自由な意見を出し合える場ともなっています。

子育て家庭への「食材」提供支援での地域連携

コロナ禍に於いて支援が必要な子ども達に食を届けるべく、財界の有志が立ち上げた「子どもの食緊急支援プロジェクト」から寄付金を頂きました。また、独自に子育て支援家庭への食材支援を行っている「子どもソーシャルワークセンター　つばさ」さんや「水島こども食堂　ミソラ♪」さんとも繋がりながら、それぞれにできる協力をして企業や団体、地域からのご寄付などを基に、お米や缶詰などのレトルト食品、お菓子などの詰め合わせを必要な子どもに届ける取り組みを行いました。





食材提供
地域の関係機関と協働して困っている家庭へ物資を届けています。

水島

支

ささえる

地域住民の皆さんが主役となり、笑顔あふれる住みよいまちを目指します

「支」カテゴリー・水島拠点のクムレ地域公益活動推進センターでは、「その人らしい生活を実現する支え合いの地域づくり」＝「地域共生社会の実現」、また「地域活性化」を目指し、“地域の資源や複雑化・複合化するニーズや困り事を知り、地域住民とともにできることを考えていくためのゆるい繋がり・ネットワークづくり”を目的として、法人理念や拠点コンセプトに基づいた多くの地域における公益な取り組みを実施しています。

地域のみんなが交わり笑顔になれる場所「にじいろカフェ」

地域交流の拠点となる「ひろばにじいろ」では、奇数月の第３金曜日に「にじいろカフェ」を開催しています。この場を通して様々な人々が交流することで、新たな居場所づくりや既存の法制度だけでは解決できない制度の狭間の課題や、新たな生活課題への対応ができる機運や場づくりに繋がればと願っています。



地域の商店の和菓子やパン、焼き菓子、野菜やフリーマーケットなどを通じて、地域住民同士の交流にも繋がっています。



11 月は 8 日の日曜日に開催し、児童虐待防止・DV 防止の啓発活動（オレンジリボン・パープルリボン）も行いました。

地域の元気と安心と笑顔が繋がった“ますマスク”作り

2020 年春、世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るい、日本においても緊急事態宣言が出され、市場からマスクが消え、人と人との繋がりも消える中、クムレの水島拠点では倉敷市社会福祉協議会さんとコラボレーションし、「地域の繋がりがます♡増す♪“ますマスク”作り」と題し、大勢のボランティアさんの力を借りてマスクを手作りし、子ども何でも相談センターの相談員の手によって、社会との繋がりを必要とされている方々にマスクと元気と安心をお届けしました。2020 年秋においても、まだまだ不足している子ども用のマスクの製作とお届けを通じて、地域との繋がりを深めています。



布の裁断や縫製だけでなく、包装やチラシの折り込みなど作業を細分化し、いろんな人が活躍できる場を多く設けました。



できあがったマスクは倉敷市社会福祉協議会さんや子ども何でも相談センターの相談員の手で、必要とされる人にお届けしました。

地域でいきいきと活躍する人々の笑顔と情報をお届けします！

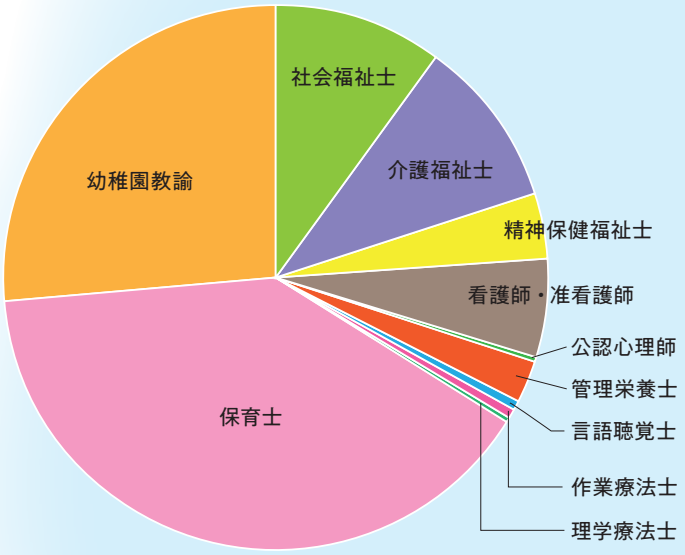
これら水島拠点の様々な取り組みや地域の方々の活躍を知っていただき、「なるほど、それならわたしにもできる！」と地域住民の方が主人公となって輝ける活動へつなげていくために、広報誌「にじいろ新聞」を発行（法人ホームページにバックナンバーを掲載しています）、フェイスブックやインスタグラムなども活用しています。

ひろばにじいろのフェイスブックとインスタグラムです♪

職種紹介

クムレには、様々な職種の職員がそれぞれの役割を持って働いています。

職員の国家資格所有者



資格種別	保有人数
社会福祉士	46
介護福祉士	45
精神保健福祉士	17
看護師・准看護師	26
公認心理師	1
管理栄養士	11
言語聴覚士	2
作業療法士	2
理学療法士	1
保育士	178
幼稚園教諭	118

2020 年 10 月 1 日現在

公認心理師 1 名、理学療法士（PT）1 名、作業療法士（OT）2 名、言語聴覚士（ST）2 名が所属しています。心身の不調などをきたした人に対して、心理や身体に働きかけるさまざまな療法を行う人、または職業です。社会福祉法人クムレでは、チームアプローチでの支援を行っており、専門性の高い職員が多く在籍しています。

理学療法士（PT）

運動面に遅れや問題が生じているお子さんに、おもちゃや器具を用いて支援を行います。また、日常生活を快適に過ごすための姿勢についての説明や車いす・座位保持装置・装具などの補助具の調整や相談なども行っています。

子ども達に身体を動かす楽しみを遊びの中で伝えることを目指しています。

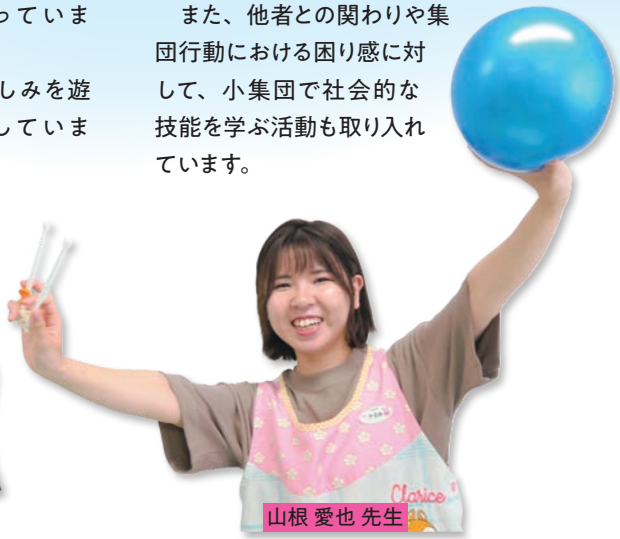


前田 さおり 先生

作業療法士（OT）

食事、着替えなどの身の回りの動作や、鉛筆、はさみなどの学習における道具の操作を遊具や玩具を使って、からだ全体や手の使い方を指導します。道具や椅子の工夫も行っています。

また、他者との関わりや集団行動における困り感に対して、小集団で社会的な技能を学ぶ活動も取り入れています。



山根 愛也 先生

言語聴覚士（ST）

ことばのやりとりが難しい、発音がはっきりしない、ことばがつまってうまく言えないなど、言葉についての相談や評価を行い、お子さんに適した方法で言語発達を促していきます。食べたり、飲み込むことが難しい方への支援も行っています。発達の様子を検査等で見させていただき、お子さんの強みや弱みの部分を評価し、支援の内容を考えていきます。



山下 恵 先生

経営デザイン認証受賞

経営デザイン認証
2020-2022年度　ランクアップ認証

「経済デザイン認証」は、（公財）日本生産性本部経営品質協議会が、「経営デザインによる生産性向上プログラム」の一環として 2018 年より新たに創設した認証制度です。本プログラムは、企業・NPO 等、あらゆる組織が「ありたい姿」「現在の環境認識」「変革課題」等、経営の根幹となる部分を設計し、見える化する、すなわち「経営をデザイン」し、生産性の改善・改革に取り組むことを目的としています。この認証制度には「スタートアップ認証」と「ランクアップ認証」の２つの認証制度があります。私たちは昨年度「スタートアップ認証」を取得、この度さらなる高みを目指そうと、水島・倉敷の２拠点それぞれで「ランクアップ認証」に挑戦し、取得いたしました。

この取り組みの中で、各拠点が５年後のありたい姿を上げ、それをわかりやすく「見える化」し、職員だけでなく地域の方にも「わかる化」をしています。そして、今後も実現へと「できる化」の取り組みを進めてまいります。

社会福祉事業の中では、経営の視点というとあまり関係性が無いように思えますが、地域・市民の課題をこの変化の多い時代の中で、どのようにキャッチして事業に発展させ、継続的に成長させるかを計画化することは、私たち非営利組織の使命だと考えております。

また今後は私たちの課題である、どのように世の中に伝え、地域住民と一緒に地域づくりに取り組めるかも含め、クムレの理念を実現するために、より良い法人に成長する機会ととらえ法人全体で取り組んでおります。



2020 年度経営デザイン認証「ランクアップ認証」授賞式にて

法人沿革

1955 年 4 月	小ざくら保育園 開園	
1956 年 3 月	社会福祉法人光明会設立	
1974 年 10 月	小ざくら夜間保育園 開園	
1975 年 4 月	小ざくら保育園	
	小ざくら乳児保育園 新設	（現在地の同一敷地内に 4 施設移転）
	小ざくら園（心身障がい児通園事業）新設	
	小ざくら夜間保育園	
1977 年 11 月	小ざくらの集い（以後 10 回継続）	
1978 年 4 月	倉敷学園 開園	
1981 年 10 月	小ざくら夜間保育園 厚生省認可第一号	
1990 年 10 月	小ざくら地域保育センター 開所（現 小ざくら地域子育て支援センター）	
1993 年 4 月	あしたば 開園	
	施設入所支援・生活介護事業	
	短期入所支援事業	
2000 年 10 月	知的障がい者グループホーム 上東ホーム 開設	
2001 年 4 月	倉敷地域生活支援センター 開設	
	地域相談支援・計画相談支援事業	
	障害児相談支援事業	
2004 年 4 月	児童発達支援事業所 T・L・S・C きらり倉敷 開設	
2004 年 8 月	児童発達支援事業所 T・L・S・C きらり児島 開設	
2004 年 8 月	ケアホーム 上東さくらホーム 開設	
2005 年 4 月	ケアホーム 上東かえでホーム 開設	
2006 年 4 月	指定管理者制度により 倉敷市鶴心寮 を受託	
2007 年 4 月	コトノハ 開所	
	生活介護事業	
2007 年 10 月	倉敷発達障がい者支援センター 開設	
2008 年 1 月	児童発達支援事業所 T・L・S・C きらり玉島 開設	
2008 年 4 月	デイセンターあしたば 開所	
	就労継続支援Ｂ型事業	
2009 年 3 月	倉敷学園 移転開設	
2009 年 4 月	児童発達支援事業所 きらり中庄 開設	
2010 年 4 月	社会福祉法人クムレに法人名変更	
	児童家庭支援センター クムレ 開設	
	居宅介護事業所 なないろ 開設	
2010 年 9 月	児童発達支援事業所 きらり水島 開設	
2011 年 11 月	居宅介護支援事業所クムレ 開設	
2012 年 4 月	訪問介護事業所 なないろ 開設	
	クムレてとて 開設	
	計画相談支援事業	
	障害児相談支援事業	
2012 年 6 月	通所介護事業所 クムレ 開設	
2012 年 12 月	居宅介護支援事業所 クムレ庄新町 開設	
2013 年 4 月	共同生活援助・介護事業所クムレ 栗坂 開設	
2013 年 6 月	児童発達支援センター クムレ 開設	
2013 年 11 月	やさい畑クムレ 開設	
	就労継続支援Ｂ型事業	
2015 年 4 月	小ざくら保育園 幼保連携型認定こども園に移行	
	ひろばにじいろ 開設	
2015 年 12 月	ひろば栗の家（おうち）開設	
2016 年 4 月	小ざくら小規模保育園 開設	
2017 年 1 月	放課後等デイサービスなないろ 開設	
2017 年 3 月	通所介護支援事業所クムレ 廃止	
	居宅介護支援事業所クムレ クムレ庄新町 廃止	
2017 年 4 月	生活介護事業所 わきあいあい 開設	
	児童発達支援事業所 きらり児島 移転	
	放課後等デイサービス コトノハ（旧放課後等デイサービスなないろ）に名称変更	
2017 年 6 月	居宅介護事業所 なないろ 移転	
2018 年 4 月	DV 被害者等相談・自立支援充実事業 受託	
2018 年 7 月	住居確保要配慮者居住支援法人 指定	
2019 年 2 月	児童発達支援センター 倉敷学園　相談事業所 開設	
	特定相談事業	
	障害児相談事業	
2019 年 8 月	企業主導型保育所 くりのおうち保育園 開園	
2020 年 4 月	小ざくら第二保育園（旧小ざくら夜間保育園）に名称変更・移転（連島町鶴新田）	

※事業所名は現在の名称



クムレレポート

発行日　2020 年 12 月 4 日
発行人　財前 民男

社会福祉法人クムレ
〒 701-0113 岡山県倉敷市栗坂 8
TEL.086-464-0007／FAX.086-464-0072

HP　https://cumre.or.jp